

響和会会報

楽藝高 Acanthus

2016年秋 第18号

編集・発行 東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校 響和会
〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8
TEL. 050-5525-2406 FAX. 03-5685-7803
URL: <http://geiko.geidai.ac.jp/>

2016年12月15日発行



メンデルスゾーンの「聖パウロ」は23才の時の作品で、四声が対等でどのパートにも美しいメロディがあり、若い人にはとても歌いやすい曲です。またシューマン交響曲第1番も「春」というタイトルがついています。正に青春真っただ中の藝高生にぴったりだと思いました。 湯浅卓雄先生より



若いからこそ本物を

第28回 藝高定期演奏会

指揮者 湯浅卓雄先生

今年の藝高の皆さんは個性豊か、大変反応が良く一生懸命です。まだアンサンブルの経験が浅いので、この時期は最初の体験として非常に重要だと私は思っています。

やはり何事も最初に本物を体験しなくてはいけない。例えば、最初にいいワインの味を憶えるとワインの本当の善し悪しに分かる。食事でも同じ、小さいときに素晴らしいものを食べている人ほど本物の味に分かる。本物を提供しなくてはいけないので、指導する私たちの方が、緊張感がありました。

本番では皆さんよく集中して演奏をしてくださいました。

音楽は素晴らしい。音楽ほど人間の心に直接訴えることのできる芸術はありません。そのような音楽に自分の身を置く事ができていることを幸せに感じて練習や勉強に励んでほしい。今回一緒に演奏したオーケストラの音楽には最も膨大なレパートリーがあり、そこから奏でられる音楽は多彩な音色、幅広い強弱など、その表現力は無限です。

藝高の皆さんはこれからの人生で沢山の人と出会って、いっぱい経験を積んで、いろいろ体験して、ありとあらゆる名曲を聴いて、素晴らしい名曲を見て、いっぱい美味しいものを食べて、そして素晴らしい音楽家になってください。

* 第28回 藝高定期演奏会 *



秋も深まった10月29日(土)、第28回定期演奏会が東京藝術大学奏楽堂で行われました。会場入口には開場前から長蛇の列ができ、たくさんのお客様がお越しくださいました。

定期演奏会は、藝高の年間行事の中でもメインイベントと言えるもので、数ヶ月の期間をかけ、全員一丸となり大曲に挑戦しています。

指揮は世界的に活躍されている湯浅卓雄先生、合唱は清水敬一先生がご指導くださいました。

第1部の邦楽合奏では長唄三味線・邦楽囃子による「元禄花見踊」と箏・尺八による「千代田の雪」「飛鳥の夢」が披露されました。特に今年は長唄三味線にお囃子が加わり、文化が花開いた元禄時代に想いを馳せながら上野の山のお花見に集う人々の賑わいをうたった曲が華やかに演奏され、箏曲尺八では、今年は生徒数が多く、十三絃の箏に低音楽器の十七絃を加えた合奏等、より音に広がりのある演奏となりました。

第2部のオーケストラと合唱では、メンデルスゾーンのアラトリオ「聖パウロ」作品36より5曲、最後にシューマンの交響曲第1番が演奏されました。合唱は、オーケストラ演奏者以外の全員が参加し、インスペクターやパートリーダーを中心に練習を重ね、合唱でも音楽レベルの高さを見せてくれました。シューマンは定期演奏会をしっかりと見据えて着実に音楽を作り上げ、直前リハーサル、ゲネプロと段々音がまとまり、気持ちの良い大きな流れが出来ていくのを嬉しい気持ちで聴くことができました。

本番は藝高のパワーが引き出され、エネルギッシュで力強い見事な演奏に、満員となった会場からは感動の拍手がなりやみませんでした。

* グローバルキャリア講演 *

7/14 日本フィギュアスケート
コーチ 佐藤 信夫 氏

歓迎演奏：フォーレ・ピアノ四重奏曲第1番ハ短調作品15



「アガリをコントロールする」をご自身の現役生活を織り交ぜてお話し頂きました。「アガリをコントロールする近道は無く、おまじないも薬も無い。しかし、本番で周りの喧騒も聞こえず記憶がなくなる程に集中力が高まるのが有ります。これは過酷なトレーニング、同じ事を何百回何千回と繰り返した結果です。本番ではやる事をやっていれば気持ちが楽になる、出来ることをやるだけです。」そして「誰も自分だけは嘘をつけないもの、自分に問うてみれば分かる事。自分の心をコントロールするのは、自分だけに出来る事。失敗しても良い、恐れてはダメです。」そう、お話し頂きました。「1つを克服してもそれで良いと思わない。先には必ず何か見えるはず。いつまでも先の何かを感じて追いかけること。常に夢と向上心を持ち前向きに取り組んで下さい。」と素晴らしいアドバイスを下さいました。

11/10 アップルコンピュータジャパン
元代表取締役 武内 重親 氏

歓迎演奏：ドビュッシー木管五重奏「小組曲」



ご自身の生い立ちからコンピューターとの出会い、Apple社への入社のごきっかけや有名なロゴに関する様々な逸話など、学生たちの事前質問の中から素朴な疑問にも答えてくださいました。人の助けになるものを創りたいとコンピューター開発の道へ進まれたこと、幼少より傍らに音楽があり、ウクレレやギターなどで簡単な作曲を楽しんだこと、そしてグローバルという観点からは、ご本人は特に意識されず、やはり英語との関わり方、「道具として英語を使うよう、まずは伝えようとする気持ちが大事」とお話し下さいました。

又「音楽も基本ルールは数学的・科学的」で理系出身者が音楽に馴染み易い理由である事。しかしながら「音楽も科学も人が持っている感性から進んでいる。好奇心をより良く持って自分の周りを大切にコミュニケーションすることにより、グローバルへ通じて行く」と大変興味深いお話を頂きました。

東京藝術大学

Tokyo University of the Arts

澤和樹 学長



インタビュー

今年藝大の音楽学部長から学長に就任された 澤 和樹学長。藝高の入学式では「自らの音や演奏が周りの人々を幸せにし、今世の中に溢れる争い事から平和をもたらすという、大きな願いを抱いて頑張ってください。」と素晴らしい祝辞をいただきました。今回は少し遠い存在になってしまった澤学長に直接お話を伺い、少しでも身近に感じる生のお言葉をお届けできればと思い、インタビューさせていただきました。

1. ヴァイオリンを始めたきっかけを教えてください。

母親が読んでくれた『三匹のこぶた』の絵本で、一匹のこぶたが楽しそうにヴァイオリンを弾いていることに興味を示し、その楽器をどうしても欲しいとせがんだ事がきっかけです。3歳の時です。両親は、子供の言う事だからと、おもちゃ売り場でプラスチック製のヴァイオリンを買い与えようとしたのですが、ちゃんと音の出るのが良いと言って譲らず、やむなく和歌山の楽器店で8分の1サイズのヴァイオリンと弓を買い揃えてもらいました。

2. 親御さんは音楽をされていた方ではなかったのでしょうか。

全く経験はありません。両親とも音楽は好きでしたが、特にクラシックを熱心に愛好して、ということでもありませんでした。母親は現在88歳ですが、いまだに週3回はカラオケに行き歌うような人です。

3. 藝大に入学するまでのような練習を重ねてこられたのでしょうか。

ヴァイオリンの練習をよくしたかという点、決してそうでもなくて、好きなレコードを聴いている時間の方が長かったように思います。ハイフェッツのレコードは全てお小遣いを貯めて買っていました。レコードを聴きながら宿題をし、終わったらまたもう一回かけて、それを何度も繰り返し、ハイフェッツがどんなポルタメントをかけているとか、ヴィブラートをしているかということが全部頭に入っているようなオタク少年でした。

4. 指揮も始められましたが、きっかけは？

指揮者にはわりと早くから憧れがあり、家でレコードを聴きながらお箸を振り回したりして指揮の真似事をしていました。藝大に入学し2年生の時、副科指揮法の先生より「指揮科に転科しないか。」とお誘いを受けたことがとても嬉しく、恩師であり藝大ご出身の東儀祐二先生（1928～1985）に報告をしたら「そんなのお世辞に決まっているから、真に受けなくてちゃんとヴァイオリンをやれ。指揮は絶対に早くからしたらいい。自分のヴァイオリンや室内楽の経験をまず積んで、40歳になったらやりなさい。」と言われました。東儀先生の仰ることを信じ、私、本当に41歳で指揮デビューをしました。

5. ご卒業されてからのご自身の演奏に対する目標としまして、どのようなものを目指されてきましたか？

イギリス留学中に、自らが楽器を超越して歌うように、あるいは語るように弾くということを目指すようになってからは、テクニックの考え方がとても変わりました。学生の皆さんにもこれから体得してもらえたら幸いですが、演奏家としての究極の目標は、聴いてくださる方々を自身の演奏によってどれだけ幸福にできるかということだと思います。私自身も多くのコンクールを経験してきましたので、コンクールは自己の鍛錬やテクニックの上達的手段としては有効なものです。上位を目指す事だけが目標になってはいけないと思うのです。音楽は勝負事ではなく、人の心に訴えかけるものであるという本質を忘れずに持ち続けてもらえたらと思います。

6. 学長になられて、藝大の入学式でバッハのソロソナタを演奏されたとお伺いしました。どのようなお気持ちで演奏されたのでしょうか。

前学長の宮田亮平先生が優れた書家でもいらっしゃるのので、いつも入学式や卒業式である字を中国の古い字体で書かれて、その字の持つ意味を話されているのが凄く素敵でした。私は音楽で新入生の皆さんに気持ちを伝えられたらと思い、本年はバッハの無伴奏ソナタ1番のAdagioを演奏しました。“Adagio”という言葉の意味は、「安らぎ」とか「寛ぎ」という意味合いがあります。私にとっては、音楽の持つ力で聴き手に安らぎや寛ぎをお届け出来れば幸いですが、他の芸術も含め、藝大に入学し学ぶことで芸術の多様性を体得し、自己のアイデンティティを育み、その成果として世の中に貢献してもらえたら幸いであるというメッセージを伝えました。ですから、演奏を通じてメッセージを届けるということは今後考えています。

7. 東京オリンピックの年には、上野から藝大が芸術を世界に発信していきたいということを音楽誌で拝見しましたが、今の藝高生が、その頃藝大の2年生から4年生、と一番役割を担う年齢になります。その展望、また発信したい具体的なことはありますか？

2020年東京オリンピック・パラリンピックは一つの契機であり、スポーツのみに限らず、多様な文化の交流する祭典でもあります。世界中の人々に、日本をより良く知ってもらう絶好の機会となるので、日本の文化芸術を藝大が先陣を切って高めることで、日本社会において大きな役割を担っていければと願っています。

* 日テレ「ヒルナンデス！」に放映されました *



左から ミツキ・マングローブさん、つるの剛士さん、日テレ後藤晴菜アナウンサー

10月17日 雨上がりの午後、藝大の第6ホール前にはわかにか緊張感が漂っていました。ホールの中で行われているのはフルートを除く管打楽器の藝高生と藝大1年生の合同授業。でもその日は特別。

藝大職員の「間もなくタレントさんがいらっしゃいま～す」の声に続き、長いマイクを持った音声さん、大きいカメラを担いだカメラマン、そしてオーラを放ったタレント、つるの剛士さん、ミツキ・マングローブさん、乃木坂46の生駒里奈さんが続々と華やかに登場、日テレの「ヒルナンデス！」藝大特集の撮影が始まったのです。

授業を進めるのは藝高卒業生でもある大橋滉一先生。キレッキレの藝高・藝大サウンドに感激する三人。シンバルを誰が鳴らしたかの音当てクイズで盛り上がり、最後はエルガーの「威風堂々」の演奏に加わっていただくという和やかな収録となりました。

オンエアではカットされましたが「どうして藝大に行きたいのですか？」というつるのさんから藝高生への問いかけに「自分の夢へ向かっての通過地点として必要な場所だからです。」と答えていた3年生の言葉が印象的でした。（収録は11月2日に放映されました）

～音楽を通して一つになった時間～



お世話になった高松市立高松第一高等学校の皆様と

<同行した2年生保護者より>

今年は四国への演奏旅行。プログラムには、藝高生や藝大院生作曲科の作品もあり、とても楽しみに足を運びました。

高松市立高松第一高等学校は名勝栗林公園の近くに立地しています。足を踏み入れると、先生方や生徒さんたちが温かく迎えてくださり、ますます気持ちが高まりました。

ゲネプロでは、前日の交流会で親しくなっていた子供達同士が、興味深く聴き合っていたのが印象的でした。

そして迎えた本番。第一高等学校の生徒さんも藝高生も集中力が素晴らしく、聴いている私たちは白熱した演奏にぐいぐい引き込まれました。会場に響く大きな拍手に、やはり本番に強い子供達だと改めて感心しました。違う土地で育った子供達が一緒に作り上げた演奏会は、大盛況の中に終わりました。出会って間もない子供達の心が、音楽を通して一つになった時間でした。

♪ 香川県と愛媛県。ここでしか味わえない楽しいことがこんなにたくさん！ ♪



↑笑える！踊りながらのうどん作り。コシの強い讃岐うどんの美味しさの秘訣は満面の笑顔。

最近流行のボルダリング？それとも忍者のようにお城に入る？高松城跡玉藻公園にて→



↑金比羅宮。お参りするには785段の階段を上らないと！那須野先生頑張っ～

←夏目漱石の「坊ちゃん」ゆかりの地、日本三古湯の一つ道後温泉。気持ち良かった～

秋の祭典

9月6日・7日の2日間にわたり秋の祭典が非公開にて開催されました。

1日目「文化の部」は学年ごとにミュージカル、劇、有志による演奏で盛り上がりました。2日目「体育の部」はバスケットボール、卓球、二人三脚など各種目が学年対抗で行われ、3年生が優勝しました。

秋祭を通して共に同じ目的や目標に向かって友情が深まり、会場が一体になっている様子が伝わってきます。



編集後記

今回の発行にあたり、急なお願いにも関わらず、多大なるご協力をいただきました。東京藝術大学関係者の皆様、日本テレビ「ヒルナンデス！」制作関係者の皆様にも厚く御礼申し上げます。

また、お忙しい中、先生方にもたくさんのご協力をいただきました。あらためて子どもと学校生活を、じっくり見つめ直す良い機会でありましたこと、心より感謝申し上げます。

微力ながらも藝高の様子を皆様にお届けできれば幸いです。

- 会長：竹本 敦子
- 副会長：波多野 真喜子 遠藤 亜弓
- 広報：北島 玲子 原 三奈子 宮澤 聡子
- 大賀 由香 福田 昌子 牟田口 佳代子
- 伊藤 文乃 信田 江都子 三好 恭子